平成 22 年 9 月 9 日

「季節と生活の歴史(2)」

----中国から学んだ思想と日本の生活史----

園田学園女子大学名誉教授
田 辺 眞 人 先 生

はじめに　昨年、日本と中国では、季節が異なるというお話をしました。今回は地球と太陽の関係で季節を考える勉強会です。今日は何日ですか?　９月９日です。この日は秋ですか夏ですか。日本ではなつ、中国では秋です、なぜでしょうか

1.　今、季節の比較文化論

(1)　季節ができる理由　＝　地球の公転面と自転の軸が 90°の関係でないから季節がおこる。

(2) 日本の「あき」と中国語の「秋」の表現が異なっていて、一カ月半、日本の方がずれています。

①日本 ＝	ふゆ	→|←	はる	→|←	なつ	→|←	あき	→|←	ふゆ	→|←							
		3/20		6/20		9/20		12/20		3/20								
		「春分」		「夏至」		「秋分」		「冬至」		「春分」								
②中国 ＝	→|←	春(シュン)	→|←	夏(カ)	→|←	秋(シュウ)	→|←	冬(トウ)	→|←	春	→							
	2/5		5/5		8/5		11/5		2/5									
	立春		立夏		立秋		立冬		立春									

立春前夜を節分という。立春は一年の始まり。年によって異なるが、おおむね 5～8 日になる。1 月の「年の干支」は前年の干支、3 月 3 日の「月の干支」は前月の干支となる】

太陽と地球の位置関係により①, ②両方の考え方があるが、どちらを採用するかは、地域、人、文化によって異なり、どちらも正しい。

(3)　なぜ日本の「あき」と中国の「秋(シュウ)」の差が起きたのか　⇒　風土によって文化が異なる。

夏に海で泳いでいると昼の海水はまだ冷たい、しかし夕方の海水は、砂浜はひえてきているのに、まだそれほどつめたくないように、海に囲まれた日本と土の文化の中国風土と違いが生ずる（水はあたたまるとなかなか冷めにくいので湯たんぽにする)。日本は昼間が長くなり暖かくなるといつまでも暑い。暦の上では秋ですが、まだまだ暑いですという気候挨拶や、暑さ寒さも彼岸までという表現も、日本独自の暦をこしらえた歴史がないので、中国の暦をそのまま適用したことに起因している。

重陽の節句について

中国の物の考え方の根本は二元論、つまりプラスか、マイナスか、陰陽この二つ。偶数の 2、4、6・・・は日陰の数字で陰である。奇数の 1、3、5・・・は陽であり、縁起がいい数字。陽数が重なると重陽ダブル効果。ちなみに今日９月９日は重陽の節句、1 月 1 日は元旦、3 月

3 日はひな祭り、5 月 5 日は端午、7 月 7 日は七夕、５節句のうち 9 月だけ重陽という。菊の時期なので菊の節句ともいう、昨日の 9 月 8 日は白露で、植物に露が宿り秋に移行する意味をあらわす。菊の花びらの露は不老長寿の薬と言われていて、日本でも奈良時代より宮中や上賀茂神社でも観菊の宴が催されている。霊力ある菊の根元を掘ると泉が湧き出した、これを菊水という。菊水をトレードマークにしたのが楠公さんで、不老長寿の願いの対象になっている。

2.　万物の根源の追及

今から 2500 年前を哲学の世紀という。万物の根源を考えた。

(1)　古代ギリシャの考えた万物の根源

ｱﾅｷｼﾒﾈｽは空気

ｱﾅｷｼﾏﾝﾄﾞﾛｽは無数の元素

ﾋﾟﾀｺﾟﾗｽは、数字

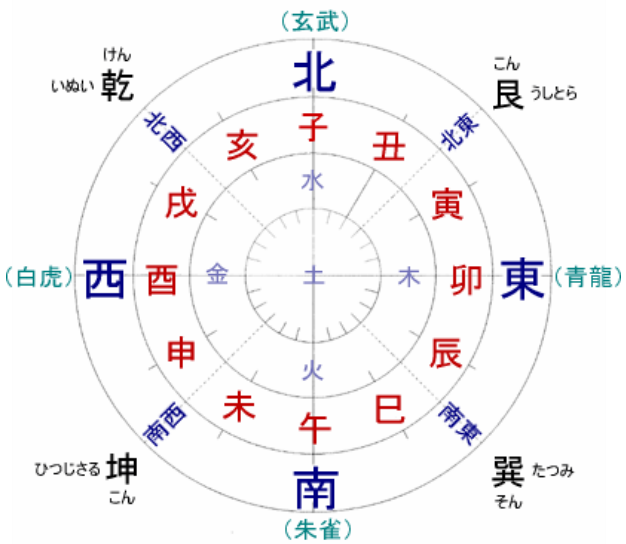
ﾃﾞﾓｸﾘﾄｽは、アトモス（細分化されたもの、カットしつくしたもの）

(2)　古代の中国では、万物の根源を気（け）、イオンと考えた。

陰←　気　→陽　　＝　陰陽

陰陽の混合具合で、5 元素【木・火・土・金・水】ができる。それが「五行」である。陰陽五行説（おんようごぎょうせつ）という。陰陽五行説の合格者が陰陽師【古代日本の律令制下に於いて中務省の陰陽寮に属した官職の 1 つで、陰陽五行の思想に基づいた陰陽道によって占筮（せんぜい）及び地相などを行う方技（技官）として配置され、後には本来の律令規定を超えて占術・呪術・祭祀をつかさどるようになった職掌】。安部清明、芦屋道摩がいる。陰陽五行によりすべて説明し、我々の世界は、時間と空間から成り立つ。

3.　陰陽五行説による万物の分析例



(1)　所(空間)の解説

・・・春夏秋冬　大地説

＊　中国は太陰太陽暦

太陽暦を使うと四季はずれないが、15 日は一五夜に,16 日はいざよいにならない。太陰暦は月の満ち欠け 29.5 日を基にしているので 15 日の日は満月になるが、季節がずれる。太陰暦では、朔望月を 12 回繰り返すだけでは約 354 日にしかならず、太陽歴の 1 年とは約 11 日の開きがあるので、三年ごとに約 1 カ月正確には 19 年に 7 度、閏月を挿入。閏月は年の途中に置いて二十四節気の中気を含まない月としている。元旦は冬至の翌々月、つまり立春前後。これにより 1 年の始めと四季の始めが一致するようになった。これが太陰太陽暦である。

(2)　時(時間) の解説

①四季と日数(360÷4＝90)　　春 90　　夏 90　　秋 90　　冬 90

②一年の「五行」分け(360÷5＝72)　春 72 日　　夏 72 日　　秋 72 日　　冬 72 日

【木・火・土・金・水】夫々72 日　①との差は 18 日。

③四季は大地の上　➡「土」の 72 日を四季に分配すると 72÷4＝18(一季分は 18 日)

④四季と五行用の日：春 90(72＋18)　夏 90(72＋18)　秋 90(72＋18)　冬 90(72＋18)

木＋土　　火＋土　　金＋土　　水＋土

それぞれの五行に共通する「土」の 18 日を加えるとすべて 90 日になる。各季節の最後はすべて土用になる。立夏の前の節分つまり 5/5 の前の節分まで春の土用にある。8/5 の立秋の前の節分までも夏の土用で、つまり土用は年に４回ある。

(3)　十二支と今夏

７月　18 / 19　20(未)　21　22　23　24　25　26(丑)　27　28　29　30　31

８月　1　2　3　4　5　6(節分)　//　7(立秋＝丑)

今夏の土用は、７/20 から 8/6 まで。7/20 はかのとひつじ、8/7 の立秋はつちのと丑で、丑の日は 7/26 の一日のみ。昨年は二百何年ぶりに土用の丑の日が二日あった。1770 年、ロシアとの貿易を考えた田沼意次の時代に、食堂をしていた平賀源内の友人が、体力の消耗する夏期の土用丑の日にウナギという看板を出して江戸中に評判になったのが最初で、全国に広まり 200 年後も食している。

4.　おわりに　古代中国の数理による世界解説

来年は「五行」と異なるアイディアについてお話をします。

何のために数(すう)が必要か？　数え理解し分類するためである。２進法が一番分けやすい基本。しかし自然界の移り変わりは３プラスアルフア。自然はまるい。そこで中国はそれらを組み合わせでものごとを考えた。これが 10 干 12 支であり、八卦である。

(文責　福家)

田辺先生のラジオご出演番組

ＣＲＫラジオ関西　558KHz

おもしろ神戸・ひょうご学楽長　毎週　木曜　あさ 8:10

街と暮らしとミュージック　パーソナリティ　毎週　日曜　あさ 8:15～9:00

三上公也の情報アサイチ　コメンテーター　毎週　水曜＋木曜　あさ 5:50～9:00